

「こまったときのねこおどり」いとうひろし

主人公のねこさんは、ねこまちのはずれの小さな森にすんでいます。不器用なねこさんはいつも失敗ばかり…お仕事はうまくいかず、車を運転すればどこかへぶつけてしまいます。おなかをすかせたねこさんは森で一匹のねずみを見つけ食べようとしていますが…ユーモアいっぱいのお話と意外な展開が楽しい1冊。

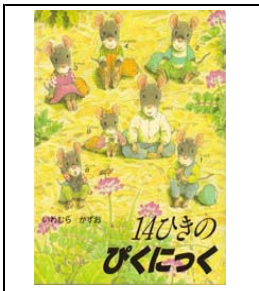
* いとうひろしの本15 * ポプラ社 * A4 * 2013年4月



「ライオンをかくすには」ヘレン・ステイーヴンズ

ある日、町に大きなライオンがやってきました。しかし、町の人たちはライオンを追い出してしまいます。逃げたライオンは小さな女の子アイリスと出会い、アイリスの家に隠れることになりませんが、大きなライオンをかくすのはとても大変！見つかったらお母さんやお父さんはびっくりしてしまいますからね…。

* ブロンズ新社 * B4 * 2013年3月



「14ひきのびくにつく」いわむらかずお

大人気「14ひきのねずみ」シリーズから春にぴったりのお話です。毎回、14ひきのねずみの家族が四季それぞれそ自然を楽しむようすが描かれています。今回の作品では、家族みんなで春を楽しむために野原へピクニック。たくさんの草花の名前や生き物などが登場し、自然の素晴らしさを教えてくれます。

* 14ひきのシリーズ * 童心社 * B5 * 1986年11月



「もうよわむしじゃない」西本鶏介・宮西達也

勇気と元気を与えてくれる作品。主人公のぼくは近所のいっちゃんとなかよし。しかし、いっちゃんは春から小学生になったので保育園に通うぼくとはもう遊べません。困ったときにはいつもいっちゃんがいたけれど…。弱虫を克服する「ぼく」のお話です。

* ひまわりえほんシリーズ * 鈴木出版 * A4 * 2005年3月



「どこでおひるねしようかな」岸田衿子・山脇百合子

「かばくん」と「ぐりのぐら」の作家同士のコラボ作品。みんなはおひるねするのにちょうど良い場所を探します。ほんの少し明るくて、少し暗くて静かで気持ちの良い風が吹くところ。あたたかくなったら、自然の中でおひるねしたくなる1冊です。春におすすめのおはなし絵本です。

* 幼児絵本シリーズ * 福音館書店 * A4 * 1996年10月